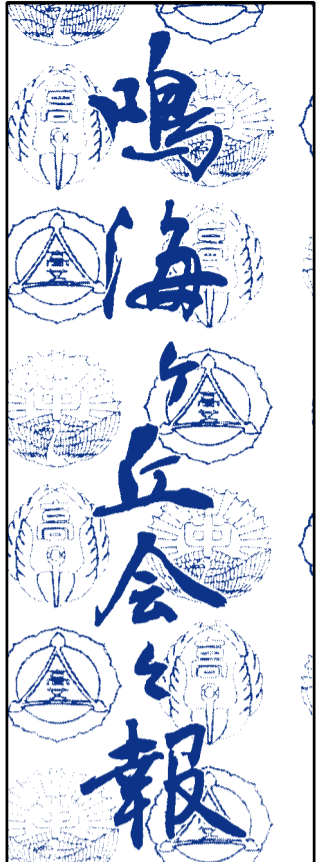


「高鍋高校OB祭企画 苦渋の決断！ ～口蹄疫義援金活動へ大きく舵切り」



発行
宮崎県立高鍋高等学校
同窓会

宮崎県児湯郡高鍋町
大字北高鍋4262
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096

岩岡同窓会長 勇退へ
新会長に 増田 秀文 氏
内諮、理事会で承認

長年同窓会々長を務められた岩岡様が今年ご退任の運びとなった。後任に増田工務店社長の増田さんが選任され、理事会で承認された。

痛む「ふるさと」を想い、在京支部から88万円の義援金。他の3支部からも近々届く。

「平成22年度高鍋高校OB祭」についてのお知らせ

鳴海ヶ丘会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、例年、高鍋高校OB祭としてゴルフコンペ、講演会、大懇親会を8月中旬に実施しておりましたが、口蹄疫拡大に伴う県下の状況から実施が難しいと判断し、これらは中止といたしました。毎年の参加そして多大なご協力をいただいている皆様には大変申し訳ありませんが、現状をご理解のうえご了承いただきますようお願い申し上げます。なお、今年度の実行委員会としては以下の内容で活動することにいたしました。

1. 高鍋高校生徒を対象とした講演会の実施
2. 口蹄疫義援金への協力
※昭和62年卒業生から集めた負担金より
3. 募金活動（平成22年8月31日まで）
口蹄疫被害に遭われた方々への支援活動として高鍋高校同窓会の皆様を対象にした募金活動を実施します。
ご賛同いただける方は、下記の口座へのお振込をお願いします。
なお、集まった募金は東児湯5町への義援金として送らせていただきます。金額等につきましては、昭和62年卒同窓生ホームページ上で報告いたします。



平成22年度高鍋高校OB祭実行委員会テーマ
「和～手をつなごう～」

◎振込口座

1. 高鍋信用金庫 本店 普通 1354500
口座名義：平成22年高鍋高校OB祭実行委員会
実行委員長 松田 光生
2. ゆうちょ銀行 普通 17390-20818191
口座名義：平成22年高鍋高校OB祭実行委員会

問い合わせ先 平成22年度高鍋高校OB祭実行委員会
実行委員長 松田 光生 TEL 080-3903-0289

※内容の詳細につきましては昭和62年卒同窓会ホームページをご覧ください。
<http://www.nabeko62.com/index.php> (パソコンサイト) http://www.nabeko62.com/k_index.php (携帯サイト) 

平成22年度 高鍋高校OB祭 記念企画

DJ-POCKY 学校講演会

開催日 平成22年8月28日（土曜日） 対象者 高鍋高校在校生

開演 午前10時から 講師 DJ-POCKY（坂元誠一）
体育館にて、約90分間 演題 「言葉が人生を変える！」

100年に一度の不景気はピンチじゃなく未来へ大きく変わるチャンス！マイナスな言葉が溢れ夢や希望が失われる今こそ、プラスの言葉を使うことで、あなた自身が変わり、あなたの大切な人の人生も変わる！未来の為にポッキーがわかりやすく熱く語ります！大人だけでなく生徒たちからも大反響！ポッキー大好演の講演会、必聴です！

お問い合わせ 平成22年度高鍋高校OB祭実行委員会事務局 080-3903-0289

DJ-POCKYプロフィール 本名 坂元 誠一（さかもと せいいち）

1954年宮崎県日南市生まれ。
県内高校卒業後、大学進学のため渡米。米国ソメジスト大学卒業。帰国後、地元ラジオ局・FM宮崎のパーソナリティー・ディスクジョッキーとして様々な番組で活躍。後に、県内のテレビ・鹿児島FM局でも番組開始。現在も宮崎・鹿児島FMラジオや宮崎ケーブルテレビなどでパーソナリティーとして活躍中。
放送メディアの最前線で県内外の最新情報をリスナーに提供している。
ホームページ：http://www.dj-pocky.net

実行委員会から
私たちがちょうど鍋校生の頃、夕方、自宅勉強の傍ら聴いていたラジオから調子のいい声が出ていました。AMやNHK-FMじゃ物足りなかった頃、宮崎でも民放のFMが開始されたのです。ラジオの中のポッキーは、リスナーを大切に、宮崎を愛し、その時の気持ちにあった曲を選びリクエストに応えていました。あれから二十数年。常に県内のメディアの第一線で活躍しているDJ-POCKY。私たちのあの頃と変わらない、パワー全開のトークをお楽しみに！

平成22年度高鍋高校OB祭記念企画

The 講演会

POCKY

元気のポッキーが人生を変える

開催日 平成22年8月28日（土）
開演 午前10時
会場 体育館
対象者 高鍋高校在校生

平成22年度高鍋高校OB祭実行委員会・事務局
TEL 080-3903-0289

「和～手をつなごう～」本年度私たちが担当しますOB祭のテーマであり、

「わ」という響きからいろいろな言葉が連想されます。平和、融和、会話、調和・・・

一人一人が手をつないで作る大きな輪（わ）。和あたたかい言葉が人の心を和ませ希望を与えてくれると思います。そしてこのことが優しさを生み、人と人の心をつなぎ地域の活力になると考えテーマとしました。

先輩方からしっかりと伝統を引継ぎ、後輩へと確実にバトンを渡すこと、そして私たち独自のOB祭にしようとして活動してきました。メインイベントである講演会では久しぶりにコンサートを企画し、本番まであと少しのところまで来ました。

しかし、4月末に発生した口蹄疫の影響を受け、OB祭自体を大幅に縮小して執り行う事になりました。今まで各部署で頑張ってくれていた仲間が無念さ、悔しさは相当なものでした。しかし、もともと悔しい思いをされている方がいます。

永年、OB祭を支えてくださっている地域の皆様も多く大変な思いをされています。本年度のOB祭はこのような方々へ少しでも役に立ちたいと考え、口蹄疫義援金への募金活動を行うこととしました。ただ当初より計画していった在校生向けの講演会は予定通り行います。坂元誠一（DJ-POCKY）氏による「言葉が人生を変える」という演題であります。これから社会に向けて羽ばたく在校生に夢と希望を持って生きて欲しい、そんな思いで計画しました。

私たち昭和62年卒業生みんなの手をつなぎ大きな輪（和）を作り、残された時間一杯頑張っていきたいと思えます。一日も早く皆様方が元気になりますようお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

実行委員長 松田 光生

平成22年度OB祭実行委員会を代表してご挨拶申し上げます。

「和～手をつなごう～」本年度私たちが担当しますOB祭のテーマであり、

「わ」という響きからいろいろな言葉が連想されます。平和、融和、会話、調和・・・

一人一人が手をつないで作る大きな輪（わ）。和あたたかい言葉が人の心を和ませ希望を与えてくれると思います。そしてこのことが優しさを生み、人と人の心をつなぎ地域の活力になると考えテーマとしました。

先輩方からしっかりと伝統を引継ぎ、後輩へと確実にバトンを渡すこと、そして私たち独自のOB祭にしようとして活動してきました。メインイベントである講演会では久しぶりにコンサートを企画し、本番まであと少しのところまで来ました。

しかし、4月末に発生した口蹄疫の影響を受け、OB祭自体を大幅に縮小して執り行う事になりました。今まで各部署で頑張ってくれていた仲間が無念さ、悔しさは相当なものでした。しかし、もともと悔しい思いをされている方がいます。

永年、OB祭を支えてくださっている地域の皆様も多く大変な思いをされています。本年度のOB祭はこのような方々へ少しでも役に立ちたいと考え、口蹄疫義援金への募金活動を行うこととしました。ただ当初より計画していった在校生向けの講演会は予定通り行います。坂元誠一（DJ-POCKY）氏による「言葉が人生を変える」という演題であります。これから社会に向けて羽ばたく在校生に夢と希望を持って生きて欲しい、そんな思いで計画しました。

私たち昭和62年卒業生みんなの手をつなぎ大きな輪（和）を作り、残された時間一杯頑張っていきたいと思えます。一日も早く皆様方が元気になりますようお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

平成22年度 OB祭について

実行委員長 松田 光生

今年度、桜の花咲き始める頃、数十年前に母校である高鍋高校に赴任した。高校時代に過ごした学び舎に、今指導者として足を踏み入れたことに、何故か違和感を覚え、校舎の内周を歩くと見えてきた。正面玄関から見えるナンキンハゼ、そう言えば高校3年生の頃清掃当番で枯葉を集めるのに苦労したものである。また、ナンキンハゼの歌のコンクールで盛り上がった学年だったことも懐かしく思い出された。母校とはいっても懐かしく愛すべきところである。

そうこうして慌しく過ぎた一週間後の始業式、そのとき、あの懐かしい響き・・・朗読の声「正姿の時間」である。自分の高校時代からまだ続いていた！驚きと懐かしさで背筋が伸びた。黙想をしながら、しばし高校時代に戻ったような感覚になった。その時、恩師の顔が目に浮かぶ。健児先生、うつりと授業に聞き入りた笹山竹義先生、女子だけドラッグビーを教えてもらった黒岩正春先生等々、忘れられない！

「正姿の時間」とは、どんなに疲れていても、前半の詩に気持ちを引き締められ、後半の「兀兀たる山嶽の偉容と洋々たる大海の度量を持って無言を行じ悠々無心の境に・・・」というところから、今日も一日「よしやるぞー！」という気持ちになれたものである。それは、すぐに気持ちが緩みがちになる自分へ言い聞かす、落ち込みがちな時、何故か勇気が湧いてきて前向きに立てている自分がある。今の後輩たちはどのように毎日聴いているのだろうか？とふと思った。

もうすぐ3ヶ月、廊下で交わす爽やかな挨拶や素直な心を持った後輩たちにこのままずっと変わらぬようにしてほしいと願う。

さらに放課後、部活動の元気な声があちこちから聞こえる。文武両道の精神はしっかりと受け継がれており、嬉しかった。

さあ、まだまだ新しい環境に十分慣れないところもあるが、あせらず！負わず！マイペースで行こう！

今年度、桜の花咲き始める頃、数十年前に母校である高鍋高校に赴任した。高校時代に過ごした学び舎に、今指導者として足を踏み入れたことに、何故か違和感を覚え、校舎の内周を歩くと見えてきた。正面玄関から見えるナンキンハゼ、そう言えば高校3年生の頃清掃当番で枯葉を集めるのに苦労したものである。また、ナンキンハゼの歌のコンクールで盛り上がった学年だったことも懐かしく思い出された。母校とはいっても懐かしく愛すべきところである。

そうこうして慌しく過ぎた一週間後の始業式、そのとき、あの懐かしい響き・・・朗読の声「正姿の時間」である。自分の高校時代からまだ続いていた！驚きと懐かしさで背筋が伸びた。黙想をしながら、しばし高校時代に戻ったような感覚になった。その時、恩師の顔が目に浮かぶ。健児先生、うつりと授業に聞き入りた笹山竹義先生、女子だけドラッグビーを教えてもらった黒岩正春先生等々、忘れられない！

「正姿の時間」とは、どんなに疲れていても、前半の詩に気持ちを引き締められ、後半の「兀兀たる山嶽の偉容と洋々たる大海の度量を持って無言を行じ悠々無心の境に・・・」というところから、今日も一日「よしやるぞー！」という気持ちになれたものである。それは、すぐに気持ちが緩みがちになる自分へ言い聞かす、落ち込みがちな時、何故か勇気が湧いてきて前向きに立てている自分がある。今の後輩たちはどのように毎日聴いているのだろうか？とふと思った。

もうすぐ3ヶ月、廊下で交わす爽やかな挨拶や素直な心を持った後輩たちにこのままずっと変わらぬようにしてほしいと願う。

さらに放課後、部活動の元気な声があちこちから聞こえる。文武両道の精神はしっかりと受け継がれており、嬉しかった。

さあ、まだまだ新しい環境に十分慣れないところもあるが、あせらず！負わず！マイペースで行こう！

なんきんはぜ

諏訪園 睦子

今年度、桜の花咲き始める頃、数十年前に母校である高鍋高校に赴任した。高校時代に過ごした学び舎に、今指導者として足を踏み入れたことに、何故か違和感を覚え、校舎の内周を歩くと見えてきた。正面玄関から見えるナンキンハゼ、そう言えば高校3年生の頃清掃当番で枯葉を集めるのに苦労したものである。また、ナンキンハゼの歌のコンクールで盛り上がった学年だったことも懐かしく思い出された。母校とはいっても懐かしく愛すべきところである。

そうこうして慌しく過ぎた一週間後の始業式、そのとき、あの懐かしい響き・・・朗読の声「正姿の時間」である。自分の高校時代からまだ続いていた！驚きと懐かしさで背筋が伸びた。黙想をしながら、しばし高校時代に戻ったような感覚になった。その時、恩師の顔が目に浮かぶ。健児先生、うつりと授業に聞き入りた笹山竹義先生、女子だけドラッグビーを教えてもらった黒岩正春先生等々、忘れられない！

「正姿の時間」とは、どんなに疲れていても、前半の詩に気持ちを引き締められ、後半の「兀兀たる山嶽の偉容と洋々たる大海の度量を持って無言を行じ悠々無心の境に・・・」というところから、今日も一日「よしやるぞー！」という気持ちになれたものである。それは、すぐに気持ちが緩みがちになる自分へ言い聞かす、落ち込みがちな時、何故か勇気が湧いてきて前向きに立てている自分がある。今の後輩たちはどのように毎日聴いているのだろうか？とふと思った。

もうすぐ3ヶ月、廊下で交わす爽やかな挨拶や素直な心を持った後輩たちにこのままずっと変わらぬようにしてほしいと願う。

さらに放課後、部活動の元気な声があちこちから聞こえる。文武両道の精神はしっかりと受け継がれており、嬉しかった。

さあ、まだまだ新しい環境に十分慣れないところもあるが、あせらず！負わず！マイペースで行こう！

なんきんはぜ

諏訪園 睦子

今年度、桜の花咲き始める頃、数十年前に母校である高鍋高校に赴任した。高校時代に過ごした学び舎に、今指導者として足を踏み入れたことに、何故か違和感を覚え、校舎の内周を歩くと見えてきた。正面玄関から見えるナンキンハゼ、そう言えば高校3年生の頃清掃当番で枯葉を集めるのに苦労したものである。また、ナンキンハゼの歌のコンクールで盛り上がった学年だったことも懐かしく思い出された。母校とはいっても懐かしく愛すべきところである。

そうこうして慌しく過ぎた一週間後の始業式、そのとき、あの懐かしい響き・・・朗読の声「正姿の時間」である。自分の高校時代からまだ続いていた！驚きと懐かしさで背筋が伸びた。黙想をしながら、しばし高校時代に戻ったような感覚になった。その時、恩師の顔が目に浮かぶ。健児先生、うつりと授業に聞き入りた笹山竹義先生、女子だけドラッグビーを教えてもらった黒岩正春先生等々、忘れられない！

「正姿の時間」とは、どんなに疲れていても、前半の詩に気持ちを引き締められ、後半の「兀兀たる山嶽の偉容と洋々たる大海の度量を持って無言を行じ悠々無心の境に・・・」というところから、今日も一日「よしやるぞー！」という気持ちになれたものである。それは、すぐに気持ちが緩みがちになる自分へ言い聞かす、落ち込みがちな時、何故か勇気が湧いてきて前向きに立てている自分がある。今の後輩たちはどのように毎日聴いているのだろうか？とふと思った。

もうすぐ3ヶ月、廊下で交わす爽やかな挨拶や素直な心を持った後輩たちにこのままずっと変わらぬようにしてほしいと願う。

さらに放課後、部活動の元気な声があちこちから聞こえる。文武両道の精神はしっかりと受け継がれており、嬉しかった。

さあ、まだまだ新しい環境に十分慣れないところもあるが、あせらず！負わず！マイペースで行こう！

OB祭の開催に向けて



実行委員会事務局長
山本 俊彦

昨年夏私は、恥ずかしながら初めて高鍋高校OB祭に参加しました。参加者の多さや先輩方の情熱やパワーに圧倒されたのを覚えています。

私達は昨年より実行委員会を立ち上げ、先輩方に負けぬようにと委員長松田光生君を中心に今夏のイベント開催に向け計画を練って参りました。やっとの思いで出演者が決まった矢先、四月に発生した口蹄疫の影響を受け、方向を変えざるを得ない状況になってしました。

しかし、このような時だからこそ『和』手をつなごう』というテーマに沿い、高鍋高校同窓会の一員として児湯地域や在校生の皆さんの元気回復の為に少しでも協力できればと思います。

『がんばろう児湯郡』
『がんばろう高鍋高校』



広報部長
内田 聖一

OB祭広報部長として約半年、多くの同級生と共に活動してきましたが、今回の口蹄疫問題にともないOB祭縮小という形をとることになりました。

まさに「さあ今から活動本番だ」という時期でしたがOB祭を支えてくださる方々への直接的・間接的被害等の理由で縮小となりましたが今後の活動は来年からのOB祭実行委員の為に形ある物と気持ちを残していかなければなりません。

それらを残して最後の講演等を終え自分たちのOB祭は終わることが出来ます。

そこからは、児湯地区が完全復興するのに数年かかると言われる中で自分達の力は微力ですが、今年度テーマ「和」手をつなごうの精神で地域経済の復興と振興に貢献していければと思っております。

最後に今回、被害をうけられた方々が立ち直り笑顔で仕事出来る日々が早く来る事を願っております。



企画部長
藤井 学

これまで色々な方々の助言や協力をいただきながら、OB祭の企画内容の検討・協議を進めてきました。今回、口蹄疫の被害拡大により、OB祭を自粛する事は非常に残念ですが、被害に遭われた畜産農家の方々、その他多くの皆様の心中を察すると当然のことであり、OB祭に係る方々にもきつとご理解いただけて思っています。

実行委員会で検討した結果、全ての企画を中止せず、在校生向けの講演、DJポッキーさんの「言葉が人生を変える」は、8月下旬に実施する予定です。私たちの活動もまだ終わってわけではなく、これから色々な壁が立ちますはだかと思いますが、最後まで最善の方向で団結して取り組んでいかなければならないと思っています。

最後に、この口蹄疫の被害が一日も早く終息することを願うとともに、これからも素晴らしいOB祭が継続していくことを期待しています。



懇親会部長
横山 薫

今から30年ほど前、私が中学二年生の頃です。父が一生懸命、OB祭の準備をしていた頃のことを今までの鮮明に覚えています。子どもながらに、すごいなあと思っていたのでしょうか。

そして今、私にもいよいよその瞬間(とき)がきたのです。まるで、父の面影を追うように実行委員の役にもつくこととなりました。久しぶりの同級生との再会。そして、自分たちのOB祭へかける情熱が高まり、「和」手をつなごうとみんなの手を取り合いながら、準備を進めてきました。

今回は口蹄疫の問題でOB祭の形は変わりましたが、その思いは変わらず同級生が丸となり諸準備をしています。私たちの故郷の人々が苦しみながらも、必死でがんばっておられる姿を見聞きしながら、私たちができる故郷への恩返し。それが私たちの今年のOB祭の形です。早くみんなの笑顔があふれる故郷にもどりますように。

22年度OB職員が着任しました！

事務室より図書館に移動しました！



青木 理江 (H8卒) さん

楽しい高校生活を送ることができたのも、私を支えてくれた先生方や共だのおかげであり、こうして又何かの縁で愛する母校で働く事に、喜びを感じています。

4月に出会った生徒たちの元気な挨拶と明るい笑顔に癒され在学時代を思い出しながら仕事をすることも毎日充実しています。これからも多くの面で高鍋高校が活躍していくことを願っています。



橋本 清也 (H6卒) 先生

正直なところ自分が鍋高生の時には、将来ここで仕事をすることになるとは夢にも思いませんでした。社会人になって鍋高で身につけた知らないことがたくさんあります。に役立つものがようやく分かってきました。そうした思いを少しでも生徒に伝えられたらと思います毎日頑張っています。よろしくお願ひします。



永目さん

長年事務室でお世話になりましたが、今年4月から図書館の事務室のお仕事をさせていただきます。新しい本に出会えて充実した日々を送っています。

平成22年度 鳴海ヶ丘会 事業計画 (案)

宮崎県立高鍋高等学校同窓会

事業内容	事業内容
4月 7日(水) 事務局会議 16:00～「高鍋高校中会議室」13名出席 OB職員歓迎会 18:30～「笹舟」岩岡会長、前田校長、職員12名出席 (新任者) 諏訪園、橋本、青木	8月 高鍋高校「鳴海ヶ丘会」平成22年度OB祭 (実行委員・S62年卒) テーマ「和 ～手をつなごう～」 総会 懇親会～延期 ゴルフ・講演会を中止し、口蹄疫義援金の募金活動を主に同窓会員に呼びかけて行う。 28日(土) 講演会 10:00～坂本誠一(DJ POCKY)氏「言葉が人生を変える」
10日(土) 入学式 10日(土) 学校歓迎会 18:30～「四季亭」 15日(木) 会計監査 16:00～「高鍋高校中会議室」(原、黒田、会長、黒岩館長出席) 監査報告・反省会 18:00～「餃子の馬渡」(会長、税田顧問、校長、監査委員、藤本事務局長、猪股事務局次長、橋口)	10月 8日(金) 鳴海ヶ丘会々報47号発刊 23日(土) OB祭引継ぎ 18:30～「四季亭」
5月 10日(月) 三役会 18:30～「きみ」(会長、丹澤、橋口副会長、顧問、校長、事務局次長、事務局次長、OB祭実行委員3名出席)	11月 日() 宮崎地区合同同窓会 日() 高鍋支部代表者会 27日(土) 福岡支部総会 18:00～ 日() 川南支部総会
6月 9日(水) 理事会 18:30～「力」29名出席 20:00～懇親会 27名出席 (OB職員7名、OB祭実行委員9名出席) 「魅力ある高鍋高校づくりを考える」会 延期	12月 日() 名古屋支部総会 22日(水) 終業式 忘年会
7月 8日(木) 評議員会 18:30～「四季亭」19:45～懇談会 16日(金) 鳴海ヶ丘会報46号発刊 17日(土) 在京支部同窓会総会 20日(火) 終業式 同窓会名簿の発行 24日(土) 関西高鍋高校同窓会総会	1月 日() 三役会 2月 25日(金) 鳴海ヶ丘会々報48号発刊 28日(月) 同窓会入会式 3月 1日(火) 卒業式 24日(木) 終業式 30日(水) 離任式 送別会

進路状況について

進路指導主事

末吉 昭夫



平成21年度の進路状況は国公立大学49名、私立大学104名、短大・高専等65名、専門学校57名、就職28名であった。現在進学面では、探求講座と難関講座を生徒の進路希望に合わせて開講しており、英数の探求講座には昨年を大きく上回る113名の生徒が、さらに難関講座(数学、英語、国語、生物、物理、化学)には、述べ91名が夕課外終了後から6:45まで真剣に取り組んでいる。また就職面では進路専門対策職員を当て、昨年は希望者全員が内定した。さらに、今年から、プロによる公務員合格講座(受講者11名)も土曜日に開講している。以上、生徒全員の目標達成に向け、今後とも全職員で取り組んでいく覚悟である。

平成22年度高校総体結果一覧

Table with sports categories (ラグビー, ホッケー, テニス, 空手, バレーボール, バスケットボール, ハンドボール, サッカー, 卓球, ソフトテニス, 剣道, バドミントン, 柔道, 弓道, 陸上, 水泳) and their respective results for various teams and individuals.



部員に熱く語る山本 巧監督

戦績

高校総体宮崎県予選

- <予選リーグ>
高鍋 12-0 門川
高鍋 8-0 飯野
<決勝>
高鍋 10-0 飯野

九州大会

- <準決勝>
高鍋 0-0 川棚 (長崎)
PS
高鍋 3-4 川棚 (長崎)
<3位決定戦>
高鍋 5-0 川薩清修館 (鹿児島)

ホッケー部九州三位

部長を努めて、二年目になりますが、本校のホッケー部の部員たちの練習熱心さには関心をします。雨の日も、風の日も、試合で勝つために、練習を続けてきました。今回の九州大会では、念願の二連覇を果たすことができましたが、三位入賞を果たし、7月末から沖縄県で開始されるインターハイの出場権を得ることができました。九州大会で負けた悔しさをバネにして、部員達がさらに成長をしてくれると期待しています。

が行われました。第1試合はエースの阿南美和子が相手高のエースと対戦しました。善戦し、ラリー戦に持ち込み、相手のミス誘う場面もありましたが1-8というスコアで第1シングルスと落としました。続くダブルスには、キャプテンを務める内村麻里と西田咲恵が出場し、序盤は相手を圧倒し、試合を優位に進めるも、大事な局面でのあと1ポイントが取れず、流れを失い3-8というスコアで破れました。最後の第2シングルスは、鈴木佑美(2年生)が高鍋の意地を示す覚悟で試合に臨みましたが、0-18というスコアで敗れ対戦成績0-13で初戦敗退が決定しました。4年連続9回目の九州総体出場ということですが、ここ4年は初戦敗退が続いており、ベスト8進出を目標として日々練習を積み重ねてきました。選手(特に3年生)は苦しい練習に本当によく耐え、がんばり抜いてくれました。チームを支え続けてくれた「新田由奈・中庭杏奈」本当にありがとう。そんな部員に目標達成をさせてあげられなかったのは監督としての自分の力不足です。「来年こそは」という気持ちで、新キャプテン(寺原ミナミ)を中心とする新チームでのリベンジを誓いたいと思います。これまで、多岐にわたりテニス部を支え続けてくださった保護者の皆様、学校関係者の方々から感謝申し上げます。そしてこれからも変わらぬご声援のほどよろしくお願ひします。

九州総体を終えて

女子テニス部 顧問 菊池 誠



6月19日〜6月21日にかけて長崎県かきとまりテニスコートで行われた全九州総体に宮崎県第2代表校として出場しました。初戦の相手は、鹿児島県代表「鳳凰高等学校」でした。鹿児島県の優勝校であり、レベルの高い選手を多数有する伝統校です。あいにくの曇天ではありませんでしたが、予定通り試合

花園に向けて

高鍋高校ラグビー部 監督 山本 巧

昨年は新人戦、総体と準決勝敗退ながら秋には全国大会に出場することが出来た。今年も1月の新人戦の準決勝敗退が敗退したが昨年以上の危機感があり、必ずこの高校総体で優勝しなければいけないという強い決意をもって臨んだ。相手は新人戦と同じ日向高校。主将を欠く布陣の相手チームに対し高鍋は3年生の少ない若いチームとはいえない現時点でのベストメンバー。経験の少なさを、体格、スキルなどまだまだ差は明らかであるが伝統の組織力で勝負しなければならぬ。結果は14-17。新人戦の20点差から差を縮めたとはいえない一瞬の隙をつかれた失点や得点のチャンスを見逃す場面を考えるとまだまだ発展途上でチーム力、各個人と全てにおいてレベルアップが必要であると感じた。敗因はプレーだけではない。普段の生活や練習への取り組み、精神的な弱さなど一つ一つの課題を確実にクリアして苦しい夏を乗り越え、秋には優勝した延岡星雲高校に二連敗した日向高校に自信を持ってぶつかってきたい。大変な状況の中でのご支援ありがとうございました。これからは3年生を中心にチーム一丸となり、保護者、学校関係者、OB、地域全ての方々の力を借りながら必ず勝ち上がり、聖地大阪花園への切符を勝ち取ることを誓います。今後ともご声援よろしくお願ひいたします。

放送部三部門全国大会へ

放送部 部長 2年3組 畠山 栞

6月に行われたNHK杯宮崎大会にて、テレビドキュメント部門第1位、テレビドラマ部門第2位、ラジオドキュメント部門第3位を受賞し、7月に東京で行われるNHK杯全国大会に出場することになりました。県予選の結果に満足することなく、自分たちの誇れる作品を制作し、上位入賞を果たしたいと思ひます。応援よろしくお願ひいたします。



藤本範行事務局長 第三の人生始動

都城工業高校バレー部監督時代から、選手へのけがや故障に対応してきたことで有名な藤本先生、昨年、専門講習を受け、本格的に開業。先生は「順調に進んでいる。部活動だけがをした中学生や高校生にもぜひ利用して欲しい」。

藤本ほかほか整体院
腰痛・肩こり・捻挫・疲労・膝の痛みを心からほくす
診療時間
午前 9時~12時 午後 13時30分~17時
整体療術師・藤本範行
予約電話 090・2856・1046